オンライン研修報告

市民と議員の条例づくり交流会議　２０２１春

議会こそわがまちのリスクコミュニケーション
オンラインで市民とつながる「討論の広場」

２０２１年3月２８日

林　晴信

議会こそわがまちのリスクコミュニケーション

オンラインで市民とつながる「討論の広場」

＜概要＞

コロナ禍と議会の１年。非常時においても果たさなければならない議会の本質的な機能があきらかになったと同時に、そのあり方も問われることになりました。地域の、自治体の、市民社会・市民の生活そのものの、課題を解決する「討論の広場」は、社会生活に浸透したオンラインでどう進化できるのか。

オンライン議会の取り組みもすすむなか、「市民とつながる」に焦点をあて、各地で踏み出した第一歩（なにを・どうから、そのやりかたまで）の経験を共有し、多様な参加のチャンネルづくりやこれからの「討論の広場」オンラインを展望します。社会の変化、チャンスやタイミングをのがさない、それぞれの現場に即したはじめかた。技術的な問題や設定、とくに意識・検討した点、つまづきポイント・よくある〇〇を解消する方法、やり方・すすめ方、具体的な対処方法から知恵や工夫まで。

■基調提起「わがまちのリスクコミュニケーションと「討論の広場」オンライン」

廣瀬克哉（自治体議会改革フォーラム呼びかけ人代表／法政大学　総長）

感染リスクをゼロにすることはできない中で、そのリスクを最小限に抑えながら生活を成立させていくためには、確かな情報が何よりも必要です。しかし、飛び交う玉石混淆の情報の中から、何が信頼できる情報かを判断することは難しく、地域によって状況が大きく違うにも関わらず、地元についての確かな情報は不足しています。人々がリスクを正しく判断し、対応がとれるように適切な情報を提供し、疑問に答えていく「リスクコミュニケーション」は、自治体議会の責務です。地域での政策判断やリスク評価のために必要な情報を集め、吟味し、住民が必要とする情報を届けていくことが、議会本来の仕事だからです。いま、その職責を果たすために自治体議会がすべきこと、できることは何なのか。ひとつずつ挑戦を始めた各地の議会の取り組み例に学びながら考えていきます。

■実践報告「オンラインで市民とつながる」

【YouTube での議会報告とオンラインアンケート】

安心してください！こうすりゃできる「オンライン議会報告」

東京都東村山市議会議員　土方 桂　（広報広聴委員会副委員長）

3 か月ごとに議会報告会を 6 年間続けてきましたが、コロナによって昨年 5 月は中止。「議会基本条例で自ら定めた市民との約束を反故にはできない」「どうすれば、何ができるのか？」と侃々諤々議論して…すぐに双方向は難しいけれど、報告だけでも作成してアップしよう、と決めました。緊急避難的に自前の PC と個人の ZOOM アカウントを活用し、撮

影した録画に手話通訳も加え、別の議員が自前のソフトで編集し、何とか完成！8 月に初めてオンライン報告として市公式 youtube チャンネルから配信しました。その後、11 月、今年 2 月と少しずつ改善を重ねつつ継続。Googleform を活用したオンラインアンケートでは、会場に足を運んだことはなかったという幅広い世代からの反応もあり、新たな可能性を感じます。リアルが再開できてもオンラインの積極的活用を進めていきたいと話し合っています。

【Zoom によるリアルタイム配信型の議会報告会】
兵庫県宝塚市議会議員　　三宅 浩二（広報広聴委員会委員長/前副議長）

2011 年に制定した議会基本条例で、議会報告会を「定例会閉会後 60 日以内」「全議員参加」と定めて開催し続けてきた。が、当時の改革熱は冷め、報告会はマンネリ化。3 月議会後はコロナを理由にあっさり中止、6 月議会後も中止へという場面で「市民との対話の機会を縮減すべきではない」とオンライン開催を提案。広報広聴委員会が夏返上で？研究し 10 月に“試行”開催にこぎつけた。

報告者は画面越しを意識したビジュアル入りの資料を作成。専門知識のある新人議員が技術スタッフとして運営に尽力し、年配の議員を委員と議会事務局が手厚くサポートしながら。先月末に２回目を終えて、ひさびさに「チーム宝塚市議会」の姿を見た思いだ。

参加人数は 30 人弱だが顔ぶれが一新。課題は事務局の負担。今後取り組むべきは、チャットなどでの双方向性の確保、ネット配信、対面・リモート同時開催と認識している。

【コロナ禍での議会報告とオンライン化の取り組み】
愛知県知立市議会議員　　田中 健　（前議長）

年 4 回開催してきた議会報告会は、コロナ禍でもホームページでの書面報告や会場を変更して三密を回避するなど工夫をしながら実施した。緊急事態宣言下での議会報告会もオンラインや動画配信を検討したが、スキル不足で断念。議員自身がオンライン研修を体験し、今後につなげることとした。議員は会場に参集し、大型スクリーンを通じて遠隔地の講師とつながった。後半は端末の操作ができる数名の議員がファシリテーターとなって端末から講師とつながり、全員がチャットで情報共有を経験した。ICT 化の検討を始めて 8 年。この間、いろいろな理由で先延ばしにされ、部分的にデジタル化に取り組んできたが、コロナ禍で非対面・非接触を迫られ、リモート環境整備の議論が一気に前進。2 月中旬供用開始でタブレットの導入が決まった。

【改選後の議会報告を動画で作成】
チャンスは逃すな！コロナ禍のオンライン。新人議員を使い倒せ！
茨城県つくば市議会議員　神谷 大蔵（広報広聴委員会委員/前議長）
茨城県つくば市議会議員　小村 政文（広報広聴委員会委員）（勝手につくば大使）

議会基本条例制定(平成 27 年 4 月 1 日施行)に向け、平成 25 年 10 月に試行的に議会報告

会を始め、試行錯誤しながら年１回以上開催してきた。やる意味あるのか？市民の苦情処理じゃないか？それぞれの議員が自分の支持者としっかり話をすればいいのではないか？など、いろんな声が出ながら続けてきて、予算決算の常任委員会化や広報広聴委員会の設置など、議会改革も進んできた矢先のコロナ。
コロナ禍の議会のあり方を追求する中で、しれっとタブレット導入を実現！12 月の改選後に、YouTuber なる新人議員が後押しをして、オンライン報告会を始めて開催した。

■質疑応答と意見交換／ディスカッション
「具体的なやり方・すすめ方／なんのために・なにを・どうやるのか」
　ファシリテーター：鷹羽登久子　愛知県大府市議会議員

≪所感≫
　新型コロナ禍の中、各地方議会が市民との関係においてどのような取組を進めているのか非常に興味があったので参加しました。
　西脇市議会においても議会と語ろう会や高校生版議会報告会は昨年は全て中止、今年も恐らく中止せざるを得ない状況の中、私たちは**議会として**市民とどう関わっていくのか、市民との接点をどのように作っていくのかを考えていかなければならないと考えます。
　そのような中、各議会における取組は大いに参考となるものでしたし、それぞれの議会が市民との関係づくりを試行錯誤しながら工夫していることは大変刺激になりました。
　コロナ禍にかこつけて何もしていない議会も多いだろうし、反面このように直接会えなくてもＩＣＴ技術を使って関係を構築しようとしているところもあります。
　まさに 2 極化だと思います。
　議会は何のためにある？
　住民のためにあると考えるのならば、西脇市議会も行動を起こさなければならないと思います。

　ＩＣＴ技術を使っての議会報告会のスタイルは大きくわけて２つあります。

　１つは、定例会の報告等を各委員長が行い、それを動画撮影して Youtube 等で配信するという方法（つくば市議会・東村山市議会）
　もう１つは、議会報告会をＺＯＯM等で行うという手法（宝塚市議会・知立市議会）

□Youtube 等を使った議会報告会の動画配信
・メリット
　事前に撮影等を行うため、失敗が無い。故に議員の心理的なハードルも低い。
・デメリット
　編集が必要なので、その分の時間とマンパワーの問題。
　質疑応答をどうするか？東村山市議会ではグーグルフォームを使って質疑応答をしている。
　なお、同様の取組は近隣の丹波篠山市議会も行っている。

□ＺＯＯＭを使った議会報告会スタイル
・メリット
　会場に直接来るのとほぼ同じ環境での議会報告会が行える。
　意見のやり取りがリアルタイムで行える。
・デメリット
　クレーマーみたいな人をどうするか？
　オープンに行うのか、或は事前登録制にするか（多くは事前登録制である）

　実は、ZOOM を使った議会報告会も、かつての議会報告会のスタイル（対面式）のような形で行うか、今の西脇市議会の議会と語ろう会のような「意見交換の場」スタイルで行うかというものがある。
　近隣では丹波市議会が今年行うと聞いています。

　私の提案は次の通り。

■■■■■　林が提案するスタイル　■■■■■
・ＺＯＯＭを使った「オンライン議会と語ろう会」
・開催回数は最低１回、できれば時間を変えて２回（１回は昼、もう１回は夜）
・参加定員は１回７０名程度（ＺＯＯＭは１００人までのため）
　おそらく実際の参加者は２０～３０名程度か
・参加者は事前登録制とする
・開催時期は７月か８月
・議員は全員で参加

（簡単な流れ）
・議長あいさつ及び本日の事前説明（５分）
・議会報告（１５分）
・質疑応答（１５分）
・意見交換会（４０分）
　ＺＯＯＭのブレイクアウトルーム機能を使い小人数に分かれて意見交換をする
　できればテーマごとに分かれるのが好ましい。
　「子育て施策」「まちづくり」「環境問題」「商工業振興」など
・再び合流してグループごとの意見発表（１０分）

上記提案を申し上げて、私の視察研修参加報告としたい。

参考：宝塚市議会

オンライン議会報告会の開催へ向けて

- 令和2年3月定例会、6月定例会の議会報告会を中止
- 議員からオンライン議会報告会を開催との声
- 広報広聴委員会で検討を開始

  ミーティングツールの選定

  オンラインでの受付方法

  質疑応答の方法

  ルールを守らない参加者の対応など課題が山積
- 広報広聴委員会の開催が月に1，2回が毎週開催へ
- 9月定例会の議会報告会には間に合わない可能性も

オンライン議会報告会を開催へ①

- 令和2年9月定例会の議会報告会をオンラインで開催することを決定
- ミーティングツールはZoom（宝塚市所有ﾗｲｾﾝｽ）
- 参加者数は60名を上限（ﾗｲｾﾝｽ上限が100のため）
- 事前予約制（兵庫県の申請システムを利用）
- 申請時に質問を受け付け、所管委員会に振り分け
- 申請時に入室名を明記してもらい入室時にチェック
- 該当しない入室名は別室に誘導し個別対応
- ルールを守らない方は別室に誘導の上、強制退出も

  ※これまで強制退出はありません

オンライン議会報告会を開催へ②

- 全議員でZoom体験会を開催（ミュートのOn-Off）
- 報告に使用する資料作成支援（PDF,PowerPoint…）
- 委員会報告は委員長が担当
- 質問については委員長が委員に依頼
- Zoomが使えない議員は別室の大型テレビで視聴
- 当日の運営は広報広聴委員会と事務局3名
- 発言者は議会に来てもらい、発言予定のない議員はどこからでも参加可能（原則、全議員参加）

オンライン議会報告会を開催

- 令和2年9月定例会の議会報告会をオンラインで開催
- 当日の内容
  - 新型コロナウイルス感染症に対する市議会の取組について（議長）
  - 総務常任委員会報告
  - 文教生活常任委員会報告
  - 産業建設常任委員会報告
  - 事前質問への回答
- 参加者27名
- 参加者の顔ぶれが一新
- 細かなトラブルはあるも無事に開催

今後の取組みについて

- オンライン議会報告会のアーカイブ化
- 双方向でのオンライン議会報告会開催
- リアル議会報告会とオンライン議会報告会の融合
- より多くの市民に見てもらう環境の整備
  （YouTubeなどの活用）
- オンライン意見交換会の開催